



▲左から、毛利さん、足立さん、阿部さん

「どんな壁も乗り越えられる、
ミュージカルは自分を成長させて
くれるもの」

あだち まお あべ みずき
足立 麻緒さん(根雨) / 阿部 瑞季さん(根雨)
もうり ちひろ
/ 毛利 智尋さん(根雨)

「私もあの舞台に立ちたい」
ミュージカルにあこがれて
—まずは、3人がミュージカル
に出演するきっかけを教えてください。
足立 私がミュージカルを始めたのは、小学2年の時です。小さい頃からミュージカルを見ていて、「私もあの舞台に立ちたいな」と思ったんです。毛利 私は小学3年の時。当時は同級生でミュージカルをやっている子が

多くて、いきいきして楽しそうだったからです。阿部 私は、小学4年の時、図書館の人に勧められて始めたんですが、最初はとても恥ずかしかったのを覚えています。—これまで特に印象に残っている作品はありますか？
足立 私は2011年の「きらりこの町」です。実は、当日調子を崩して声が出なかつたんですが、夜の部で何とか出せるようになったんです。その時、歌唱指導の小椋先生が「あなたの声が出たおかげで場の空気が変わった」と言ってくれて。その時、「歌の力」ってすごいんだなと実感したのを覚えています。「役に切り切ることが楽しい」魅せる演技目指して努力

—今は3人とも高校生ですが、これまで部活や高校受験など、ミュージカルとの両立が大変だったと思います。現在まで、ミュージカルを続けてこられた理由などを教えてください。阿部 出演者やスタッフの方たちがとても親切で、ずっとこの中でやっていきたいと思えたこと。そして、何より、自分と違う人になり切れることがとても楽しいんです。だから、進路のことで悩んでいた時も乗り越えたいし、何か「自分の殻」みたいなものを破れた気がします。今は、与えられた役の気持ちになって、皆さんに愛される役作りを目指しています。毛利 私は、「ミュージカルをやりたい」という自分の気持ちに素直になれたことですね。今もミュージカルができてとても楽しいです。今回も、与えられた役になり切れるよう、歩き方やしぐさなどを練習しています。足立 ミュージカルでの達成感や舞台に立てることの喜びが一番ですね。演じることの楽しさを感じながら、「皆さんが注目してくれる」「自分も魅せられる」演技を目指して、頑張っています。3人 本番に向け、みんな一丸となって頑張ります。ぜひ、皆さん見に来てください。



「1945年8月6日のできごと～たままり神社でぼくらがであった仲間たち～」(2015)



「魔法にかかった信くんとなかまたち～はせべのぶつらの描いた夢タウン・小京都「ひの」を行く!～」(2014)



「鶉の池新おとぎばなし」(2013)



「明地峠のゴンぎつね」(2012)



「きらりこの町～遠いむかしむかし僕たちの町おこし～」(2011)



▲右から、由佳里さん、長男・月さん、次男・龍樹さん

裏方として支え続けた舞台 今は子どもたちと同じスタートラインに

いけひら ゆかり
池平 由佳里さん（黒坂）

「家族みんなで舞台上」
子どもの成長も楽しみ
に
—家族での出演のきっかけを教えてください。
私は、淀江ですとミュージカルをやってきたのですが、脚本・演出の渡邊先生に誘われ、町民ミュージカルに。2007年ごろまで、出演者としてミュージカルに出演していました。その後、子育てを機に、出演者としてではなく、舞台を支えるスタッフとして携わってきました。

「家族みんなで舞台上」
子どもの成長も楽しみ
に

—家族での出演のきっかけを教えてください。
私は、淀江ですとミュージカルをやってきたのですが、脚本・演出の渡邊先生に誘われ、町民ミュージカルに。2007年ごろまで、出演者としてミュージカルに出演していました。その後、子育てを機に、出演者としてではなく、舞台を支えるスタッフとして携わってきました。

—家族での出演のきっかけを教えてください。
私は、淀江ですとミュージカルをやってきたのですが、脚本・演出の渡邊先生に誘われ、町民ミュージカルに。2007年ごろまで、出演者としてミュージカルに出演していました。その後、子育てを機に、出演者としてではなく、舞台を支えるスタッフとして携わってきました。

—家族での出演のきっかけを教えてください。
私は、淀江ですとミュージカルをやってきたのですが、脚本・演出の渡邊先生に誘われ、町民ミュージカルに。2007年ごろまで、出演者としてミュージカルに出演していました。その後、子育てを機に、出演者としてではなく、舞台を支えるスタッフとして携わってきました。

名前だったことと、家族と一緒にできることがしたいと思っただけです。

—出演者とスタッフの両方を経験された中で、感じたことは何かありますか。
出演者として、その役になり切ることも大変ですが、裏方はその役になり切っている子を支えながら、気持ちをどう上げていけるかを考えるのが難しいですね。

—出演者とスタッフの両方を経験された中で、感じたことは何かありますか。
出演者として、その役になり切ることも大変ですが、裏方はその役になり切っている子を支えながら、気持ちをどう上げていけるかを考えるのが難しいですね。

—出演者とスタッフの両方を経験された中で、感じたことは何かありますか。
出演者として、その役になり切ることも大変ですが、裏方はその役になり切っている子を支えながら、気持ちをどう上げていけるかを考えるのが難しいですね。

子どもたちには、この機会を通じて、何事にも挑戦できる人になってほしいと願っています。いろんな人と出会い、学んで、大きく成長してほしいです。私はそれを裏方として支えたいと考えています。

私も出演者としては約10年のブランクがあり大変ですが、子どもたちは「ダンスが楽しい」と言っていますし、歌も流行りの曲などがあり、なじみやすいです。皆さんもぜひやってみませんか。

子どもたちにはミュージカルを通じ 感動をもって生きてもらいたい。

おかだ くみ
振り付け指導 岡田 久美さん（広島県三原市）

「楽しい舞台づくり」
子どもたちが輝けるように
—まず、町民ミュージカルの印象を教えてください。
これまで、ダンスの振り付けや指導だけでなく、本番でのメイクなどに携わってきました。ほかの地域のミュージカルと違うのは、出演者、スタッフ、家族のチームワークや情熱などサポート力がすごいところですね。大道具や小道具作りでの創造力など、「創る」ことの楽しさを持っている人が多いと感じます。こうした「楽しめる舞台づくり」こそ、日野町な



▲熱心にアドバイスする岡田さん（右）

らではだと思えますね。
—ダンス指導をする上で気を付けていることなどはありますか。
まずは、ミュージカルの世界観を描けること、次に、ストーリー性のある振り付けを考えること、そして、最後にみんなが楽しく取り組めることですね。指導の時間が限られてはいますが、「踊り」の部分で磨いていきたいです。本番では、いつもみんな輝いているので、今回も楽しみにしています。

—ミュージカルを通じて子どもたちにはどう成長してほしいですか。
私のダンス指導のテーマでもあるんですが、子どもたちには「生きていく力」を養ってほしいと願っています。そして、感動を持って生きること。それを日ごとに生かし、何か困難なことがあったときに前向きになってほしいです。

ミュージカルは一人ではできません。裏で支えてくれる人たちに感謝しながら、子どもたちと感動の舞台をつくっていきなりたいです。